

1. 基本情報

評価対象年度 (令和元年度)

施策コード	421		施策名	自然環境の保全			
将来像	4	豊かな自然と調和した住みやすく活気あるまち(「基盤づくり」の分野)					
まちづくりの基本目標	42	豊かな自然と調和した環境にやさしいまち					
主担当部	都市整備部		主担当課	水と緑の環境課		主担当係	緑と公園係
担当者	南澤 志公		役職	都市整備部長		内線	360
関係課	生涯学習スポーツ課						

2. 施策の方向

10年後の姿	雑木林、崖線、屋敷林などの緑地や河川など、豊かな自然環境が適切に保全されています。					
施策の方向性	1	自然の大切さを広め、緑地や水辺など自然環境の保全に努めます				
	2	雑木林の再生と水辺と親しめる環境を整備し、うらおいを感じるまちづくりを進めます				

3. 構成事業の状況

(単位:千円)

No.	事務事業名	実行計画	施策の方向性	担当課	平成30年度決算	令和元年度決算	令和2年度予算
0104010401	環境衛生事務事業		1	水と緑の環境課	1,983	1,637	2,726
0104010505	環境保全啓発事業		1,2	水と緑の環境課	6,834	5,826	5,978
0108030504	緑地保全事業	対象	1,2	水と緑の環境課	32,643	129,880	29,639
0108030507	緑地整備事業	対象	1,2	水と緑の環境課			196,540
0108030508	カタクリまつり事業		1,2	水と緑の環境課	548	208	555
0108030510	柳瀬川回廊事業		1,2	水と緑の環境課	7,619	7,636	15,200
0110050113	清瀬下宿ピオトップ公園管理事業		2	生涯学習スポーツ課	2,452	2,618	2,712
総事業費(施策の合計)					52,079	147,805	253,350

4. まちづくり指標

指標情報					平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和4年度	令和7年度	
①	名称	市が保全する緑の面積			目標値	5.2	5.2	5.2	5.3	5.7
	説明		単位	ha	実績値	5.2	5.2			
	抽出方法	公有財産台帳など			達成率	100.0%	100.0%			
②	名称	身近な水辺や緑に親しみを感じると思う人の割合			目標値	—	—	75.0	75.0	80.0
	説明		単位	%	実績値	—	72.2(※)			
	抽出方法	市政世論調査(平成29、令和2、5、8年度実施)			達成率	—	—			

※平成29年度実績値を記載

5. 評価(令和元年度実績に対する)

評価基準	評価※	評価理由
投入財源・成果 (「3. 構成事業 の状況」「4. まち づくり指標」)に 対する評価	総合評価 (成果、投入財源等を 総合的に評価) 維持	<p>構成事業の状況は、全ての事業が施策の方向性の1と2の目標達成の手段として寄与しており、「10年後の姿」を実現するために適当な事務事業が展開されている。</p> <p>現在市内には、市及び都が所有する公有林、民間が所有する保全林などを合わせ、17ヘクタールの雑木林が残されている。また柳瀬川や空堀川の水辺環境が市民生活の身近な場であり、朝夕の散歩や休日の散策などの場となっている。これら豊かな自然環境は都市農地と合わせ、清瀬市の個性となり、市民が市に愛着を寄せる大きな要素となっている。</p> <p>しかし、相続の発生に伴う生産緑地(畑)や雑木林の減少によって、緑被率の維持は難しい状況になっている。そのため市は、これまで、中里一丁目緑地や下清戸道東緑地、神山緑地などを購入し、雑木林の保全を図ってきた。公有地化は現在も推進中であり、今後も残すべき緑地を保全するため、所有者などから情報収集を行い、市の財政状況を考慮しながら、将来を見据えた上で、必要最小限のまとまりのある緑地を計画的に公有地化していく。</p> <p>また、カタクリまつりやさくらまつり、ひまわりフェスティバルは、市内外の人々が清瀬市の豊かな自然を発見し、親しむ機会となっており、自然の大切さの啓発、豊かな自然と共生できるまちとしての清瀬市の価値の向上につながっている。</p>

※順調「10年後の姿」達成に向け、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が順調に推移している
維持「10年後の姿」達成に向け、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗に一部課題がある
停滞「10年後の姿」達成に向け、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が遅れている

6. 施策を取り巻く環境

外部要因	状況	外部要因に対する評価	評価理由
市民ニーズ の状況	令和元年度みどりに関する市民アンケート調査では市内のみどりの豊かさについて、みどりは多いと思う方が約70%いる。	3.施策の必要性を高める	市のみどりの保全は、多くの方から評価されているため、この施策を高め魅力的なものにすることで市の財産価値を高める。
将来人口 の推移	高齢化社会が進行している。	3.施策の必要性を高める	今後の高齢化の進行を見据えて、みどりが人に潤いと安らぎをあたえ、身近に感じてもらうために、緑地の保全や散策路等の整備が重要になっている。
他自治体 との比較	近隣5市の中では、緑被率は一番高い。	1.施策遂行に役立つ・有利	生産緑地が多いことで、道路整備やまちづくりの課題となっている。しかし、自然環境の豊かさを市の魅力として捉えた取り組みを推進する上では大きな資源である。
民間企業・NPO ・市民の動向	緑地保全活動に係る市民活動団体が高齢化し、後継者が不足している。	2.施策遂行に不利	専門的知見を有し、主体的かつ積極的に保全活動している市民団体との協働によって推進している施策の推進体制の持続可能性が低下する。

7. 施策を進める上での課題

①	<p>施策を進める上での課題 限られた財源の中で、保全すべき緑地の公有地化を進める必要がある。</p> <p>関連する事務事業名 緑地保全事業</p> <p>現在の取組状況 市財政負担の年度間の平準化や、国や都補助金を活用できるよう、土地開発公社による用地先行取得を活用して事業を推進している。</p> <p>令和3年度以降の取組 国や都の補助金を活用できるよう「緑確保の総合的な方針」や「都市計画公園・緑地の整備方針」の改訂時期に優先整備区域として都市計画決定する。</p>
②	<p>施策を進める上での課題 まちづくりの方向性を踏まえ、保全すべき雑木林の公有地化を進めており、現在その面積は5.3ヘクタールになった。周辺地域の安全を確保することはもちろん、快適な住環境と調和した雑木林として維持管理する必要がある。</p> <p>関連する事務事業名 緑地保全事業</p> <p>現在の取組状況 下清戸道東緑地、神山緑地、中里一丁目緑地(市有林)において順次萌芽更新事業を展開してきた。今年度で中里一丁目緑地の萌芽更新事業が完了する。</p> <p>令和3年度以降の取組 残る市有林についても、所在する地域の特性を踏まえながら、必要に応じた萌芽更新事業を実施する。</p>